

《横浜市感染症臨時情報》風しん第19報

風しん患者は依然として例年より多い状態です。

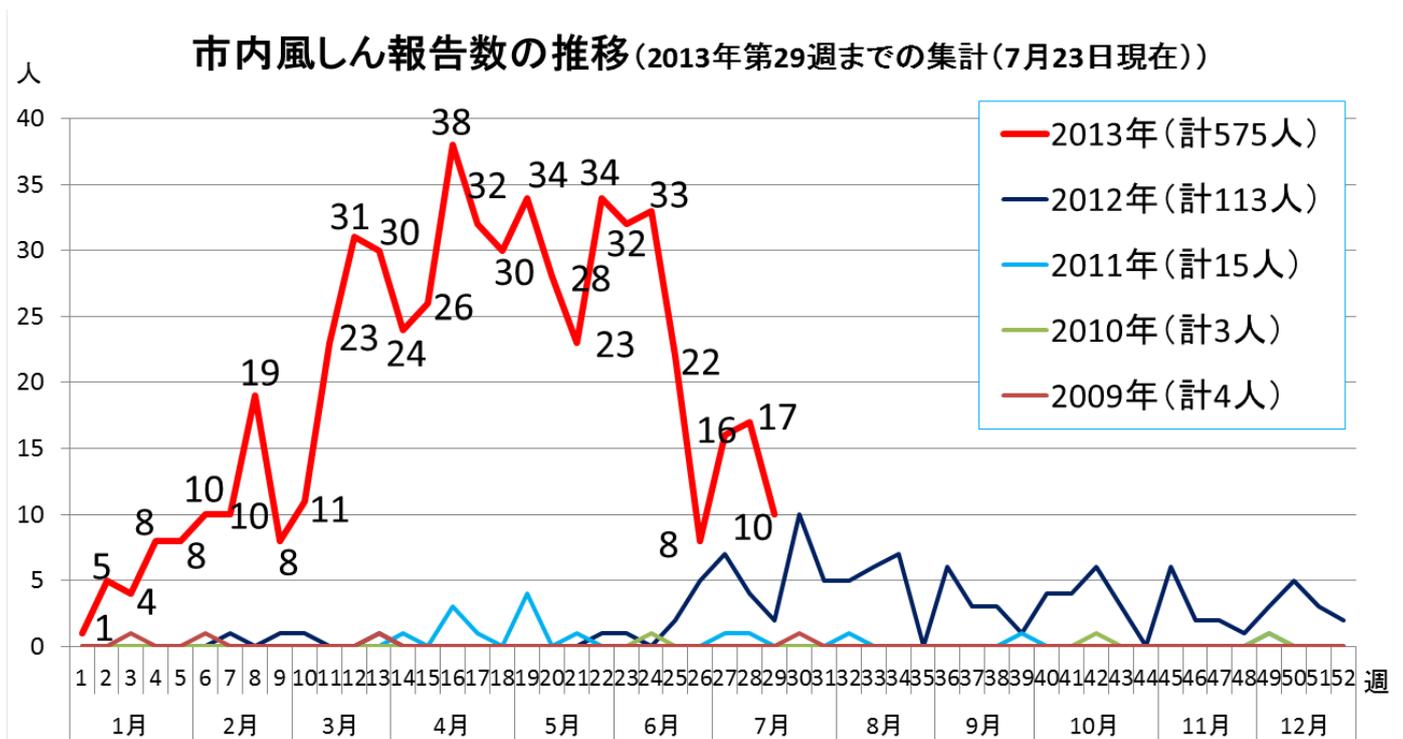
- ◇ 男性患者は減少傾向ですが、**女性患者はほぼ横ばい状態**です。
- ◇ 全国では「**先天性風しん症候群**」の報告が続いています。
- ◇ **妊婦、特に妊娠初期の女性**が風しんに感染すると、赤ちゃんにも感染し、白内障、先天性心疾患、難聴などを主な症状とする「**先天性風しん症候群**」にかかってしまうことがあります。
- ◇ 「**妊娠を予定・希望している女性**」、「**妊娠している女性の夫**」を対象に予防接種の助成※を実施しています。

※ 横浜市の風しん予防接種助成の詳細(横浜市保健所:緊急風しん対策について)

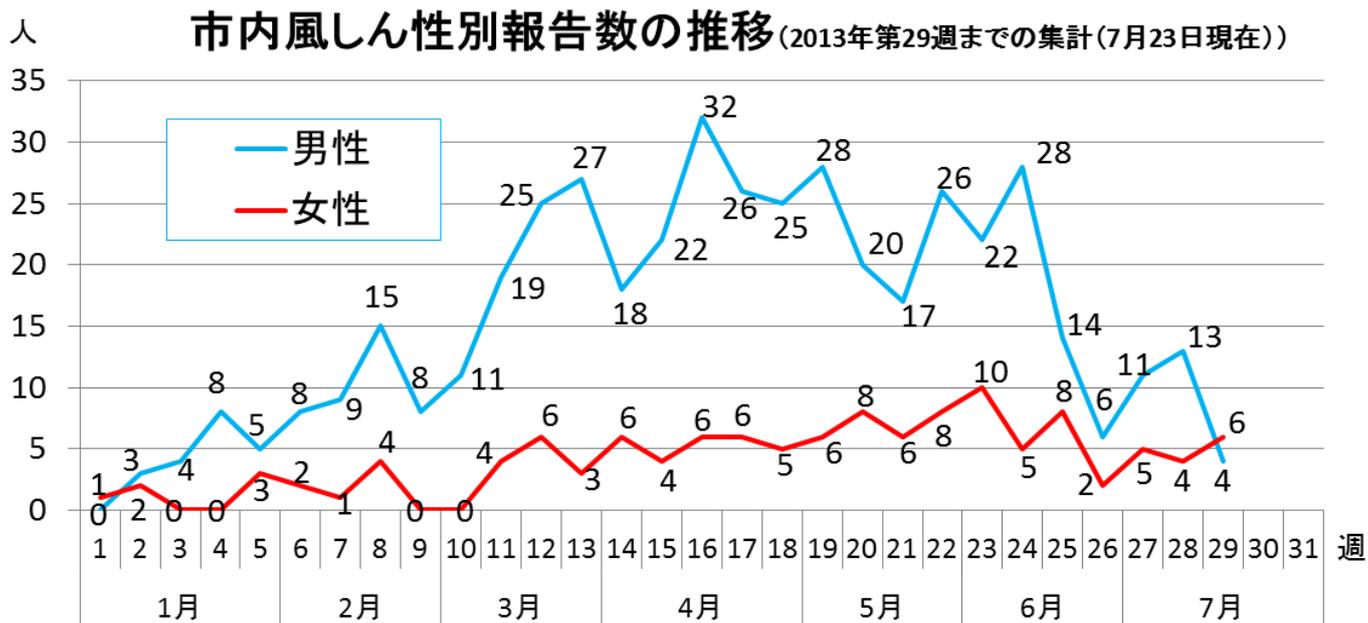
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/genre/kansensyo/vaccination/rubella.html>

風しんの主な症状は、発熱とほぼ同時に出る発疹、耳の後部のリンパ節の腫れなどです。3日前後で解熱とともに発疹も消失します。気になる症状が現れたときには、必ず受診し、きちんと診断を受けましょう。

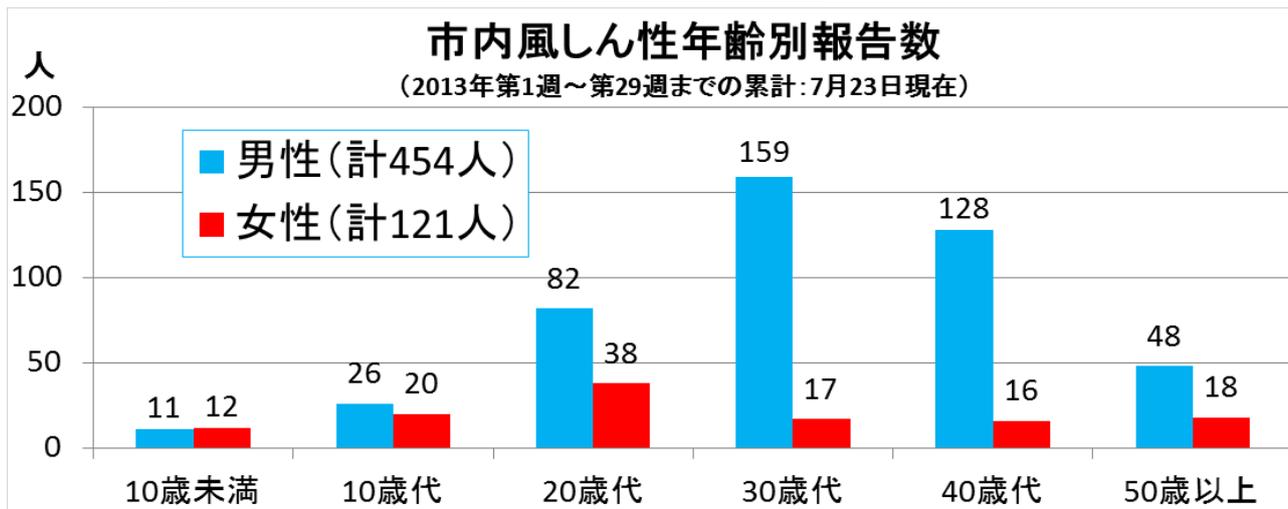
- 1 市内流行状況:今年の初めから第29週(7/15~21)までの患者報告数累計が575人となりました。**第26週以降週当たりの報告が20人を下回るようになりましたが、依然として毎週の報告が続いています。**



2 性別届出患者数の推移: 男性患者数は減少傾向ですが、女性患者数はほぼ横ばい状態(12週以降の週ごとの女性平均報告数は5.8人)です。第29週は第1週以来ひさびさに女性患者数が男性患者数を上回りました。



3 届出患者の性年齢別状況: 患者数の累計では、ほとんどが男性(79.0%:2013年の患者575人のうち454人が男性)ですが、女性では20歳代の報告がもっとも多くなっています。



4 先天性風しん症候群の発生について: 市内では報告はありませんが、全国では第27週に千葉県で1件、第25週の東京都1件、第23週の同じく東京都1件と、継続的に報告されています。今年に入っての報告数は計8件(東京都3件、愛知県2件、神奈川県(相模原市)1件、千葉県1件、大阪府1件)となりました。なお、風しんの大きな流行がみられなかった2010年は0件、2009年は2件、2008年は0件の報告であり、今年の報告数が非常に多いことが分かります。

任意予防接種の助成

横浜市では19歳以上の横浜市民で、「妊娠を予定・希望している女性(注:妊娠中は接種できません、接種後2か月は避妊をしましょう)」、「妊娠している女性の夫(婚姻関係は問いません)」を対象に麻しん風しん混合(MR)ワクチン1回分の助成を行っています。詳しくは[横浜市ホームページ](#)をご参照ください。